

経営比較分析表（平成28年度決算）

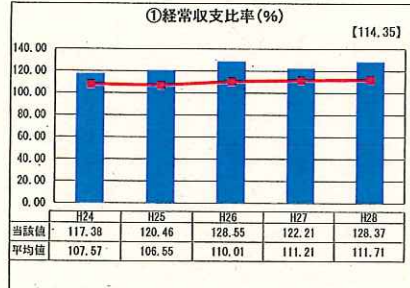
鳥取県 北栄町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	64.86	99.45	2,970	

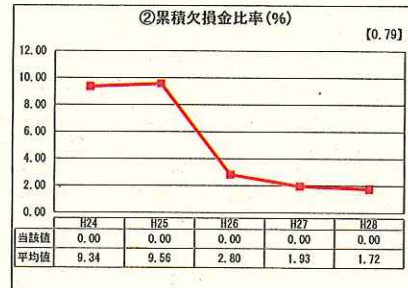
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,402	56.94	270.50
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
15,260	57.21	266.74

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
□ 平成28年度全国平均

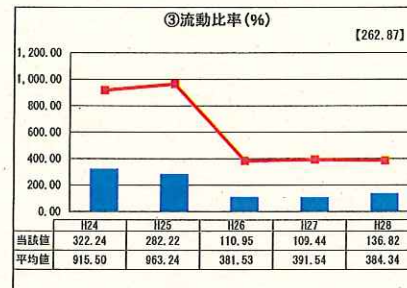
1. 経営の健全性・効率性



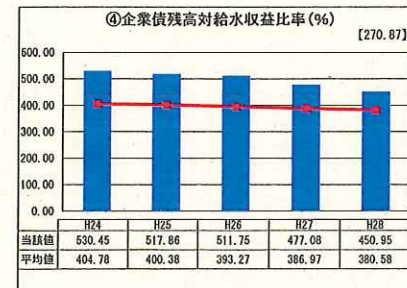
「経常損益」



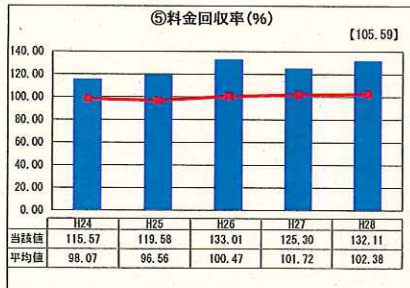
「累積欠損」



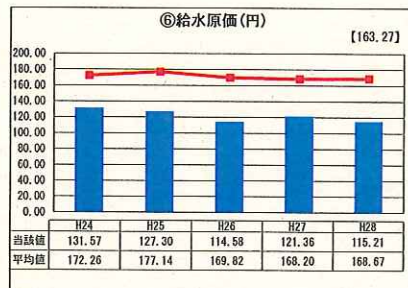
「支払能力」



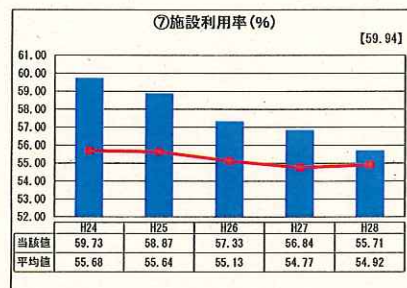
「債務残高」



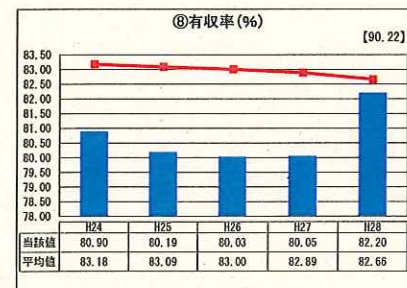
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

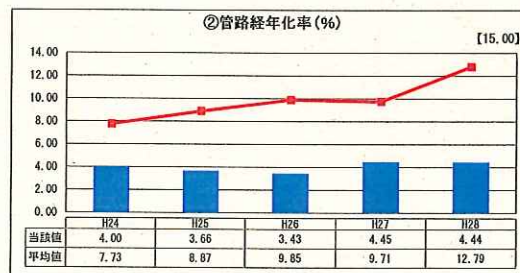


「供給した配水量の効率性」

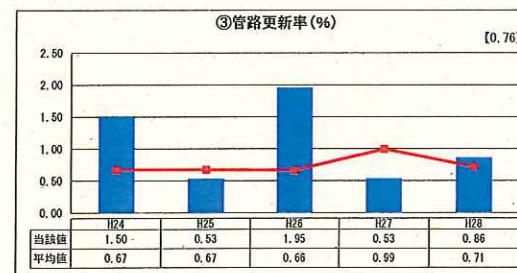
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・北栄町の水道事業は、「①経常収支比率」と「⑤料金回収率」の数値より、給水収益等で給水に係る費用が十分に賄えており、類似団体の平均値と比較しても高い数値であり、健全な経営ができています。

・「②累積欠損比率」も発生しておらず、経営上問題は無い。

・「③流動比率」で短期的な債務に対する支払能力はある(100%以上)と表示されており、現金について言えば、年々増加傾向にある。

・一方で「⑥給水原価」は、全国平均と類似団体より低い状態にあり、今後、料金回収率や投資の効率化・維持管理費等の削減といった部分において改善の検討が必要と言える。

・さらに「④企業債残高対給水収益比率」は、全国平均と類似団体の数値を上回り、施設の整備に係る費用(工事請負費)の財源を企業債に依存していた結果であると言える。今後5年間で配水管改良工事等を継続する予定であるため、投資規模が適正であるかどうかの見直しが必要である。

・「⑦施設利用率」は年々減少傾向にあり、人口減に伴うものと考えられるが、そもそも施設が遊休状態ではないかの分析が必要である。

・「⑧有収率」は高く、施設稼働が収益に反映され、良好な状況である。

2. 老朽化の状況について

・「①有形固定資産減価償却率」は、年々増加傾向にあり、資産の老朽化度合は今後とも上がると予想される。(法定耐用年数に近い資産が増加する見込み)

・「②管路経年率」は、全国平均と類似団体より低いが、今後耐用年数に達し更新時期を迎える管路が増加すること等が考えられるため、事業費の平準化を図り、計画的かつ効率的に更新する必要がある。(仮に、H28年度のペースで管路更新すると全管路更新に116年要する計算になる。)

全体総括

・北栄町の水道事業は、現在のところ経営上の問題は無く、健全であると判断できる。

・しかしながら、今後、人口の影響による収益の低下、さらに施設等の老朽化による維持管理費等の増額も見込まれ、企業債等に依存せざるをえない厳しい状況も予想される。

・以上のことから、今後、施設の更新、整備や耐震化等を進めていく上で、施設利用率、有収率の向上を念頭に置きながら、より適切な効率的な計画を検討する必要があると考える。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。